

No.2018-35

実質GDPマイナス 2四半期ぶり

10月以降は回復を見込むも、海外情勢が懸念材料となるか

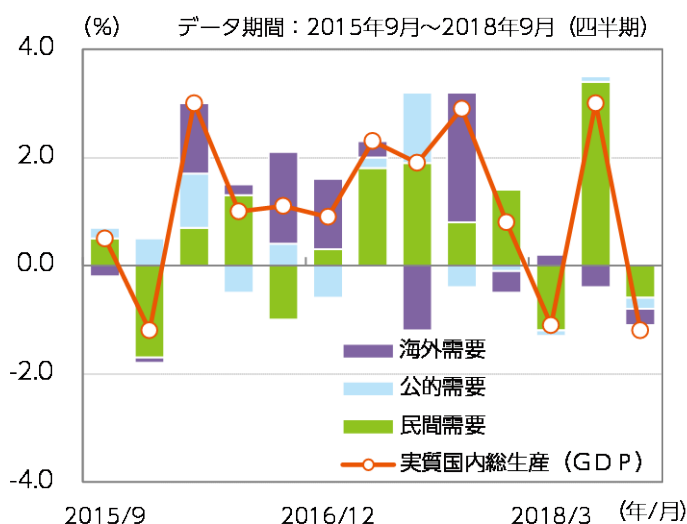
- ▶ 内閣府が発表した2018年7～9月期の実質国内総生産は、前期比マイナス0.3%となる。
- ▶ 相次ぐ自然災害により、内需の柱である個人消費が伸びなかったことが主因か。
- ▶ 次期に反動増を予想する声はあるも、世界経済への不透明感が日本に悪影響を及ぼす可能性も。

内閣府が11月14日に発表した2018年7～9月期の実質国内総生産（GDP、季節調整済み）速報値は、前期比マイナス0.3%、年率換算ではマイナス1.2%となりました（図表1、2）。西日本豪雨や台風21号、北海道地震とそれに伴う大規模停電など自然災害が相次いだことで、内需の柱である個人消費が伸びなかったことが主因となったとみられます。マイナスとなるのは、大雪など天候不順で個人消費が不振となった2018年1～3月期以来、2四半期ぶりとなっています。

内需のおよそ半分を占める個人消費は、自然災害の影響による宿泊・飲食関連の減少によりマイナス0.1%となり、4～6月期から大きく落ち込みました。また、民間設備投資も、自然災害で建設用機械への設備投資が滞ったことなどを主因とし、8四半期ぶりのマイナスで、4～6月期から大幅に下振れとなりました。プラスとなったのは住宅投資で、5四半期ぶりにプラスに転じました。工事の進捗状況に応じてGDPに算入されるため、4～6月期の新築着工が反映されたためです。外需のうち、輸出も災害による部品供給停滞や生産の遅れの影響を受けました。マイナス1.8%となり5四半期ぶりのマイナスとなっています（図表1、2）。

災害による影響の解消が見込まれる2018年10～12月期には反動増を予想する声は多いものの、米中貿易摩擦をはじめ世界経済への不透明感が増しており、日本経済にも悪影響を及ぼす可能性が強まっているようです。

図表1：個人消費が振るわず2四半期ぶりにマイナス



※実質GDP増減率の寄与度の内訳（前期比、年率）

図表2：自然災害による内需の落ち込みが目立つ

GDP 【年率換算】	▲0.3% (0.8%) 【▲1.2% (3.0%)】
個人消費	▲0.1% (0.7%)
住宅投資	0.6% (▲1.9%)
設備投資	▲0.2% (3.1%)
民間在庫	▲0.1% (0.0%)
政府消費	0.2% (0.2%)
公共投資	▲1.9% (▲0.3%)
輸出	▲1.8% (0.3%)
輸入	▲1.4% (1.0%)

※2018年7～9月期の実質GDP増減率（前期比）の内訳

*1 カッコ内は2018年4～6月期 *2 ▲はマイナスを表します。

*3 民間在庫はGDPの伸びに対する寄与度を記載

出所) 図表1、図表2は内閣府のデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

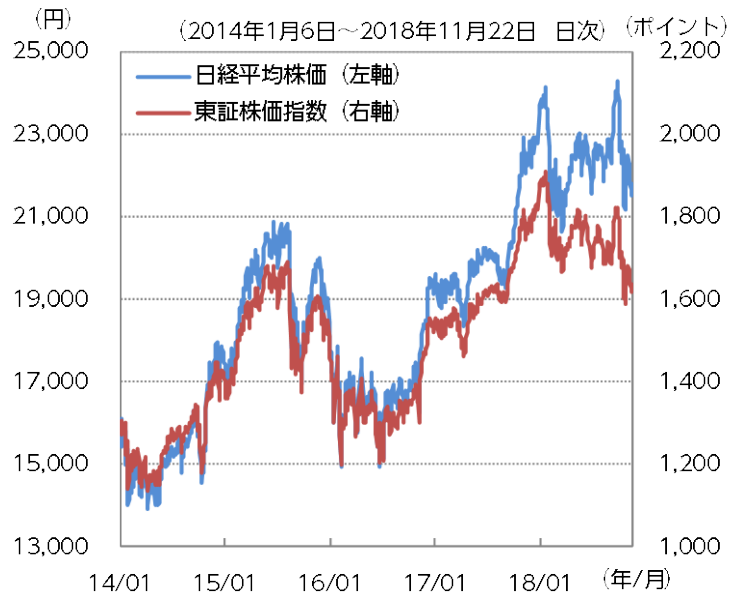
(2018年11月19日～11月23日)

(1) 日本の株式・債券市場

株式市場の動き

■ 先週の日本株式市場（日経平均株価）は、前週末比で小幅に下落となりました。米中貿易摩擦への不安が一服し3営業日ぶりに反発してスタートしたものの、米ハイテク銘柄を中心とした株価の大幅下落や原油価格の下落等を受け、その後は2日続落となりました。週末は、日銀が上場投資信託（ETF）の買い入れに動くとの観測から前日比で上昇となりました。（週末引け値：21,646.55円）

■ 週間では、日経平均株価は0.16%の下落、東証株価指数は0.02%の下落でした。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

債券市場の動き

■ 先週の日本債券市場（10年国債金利）は、米利上げペースの鈍化観測を背景とした米長期金利の低下を受け、週初は節目となる0.1%を下回りました。週末は、日経平均株価の上昇を受け、相対的に安全資産とされる債券は売りが優勢となったものの、週間では前週末比でほぼ横ばいとなりました。（週末引け値：0.100%）。

■ 週間では、0.004%の低下となりました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

(2) 米国の株式市場

市場の動き

- 先週の米国株式市場（NYダウ）は、前週末比で下落となりました。小売り大手の市場予想を下回る企業決算や、原油価格の下落を受けたエネルギーセクターの株価下落により、軟調な展開となったことから、週を通じて下落となりました。（週末引け値：24,285.95ドル）
- 週間ではNYダウは4.44%の下落となりました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

(3) 外国為替市場

市場の動き

- 先週の米ドル/円相場は、前週末比で円安米ドル高となりました。米利上げペースが鈍化するとの観測を受けた円買い米ドル売りと、原油安をきっかけとした米ドル買いにより、週を通じて一進一退の展開となりました。（週末引け値：112円95銭～113円05銭）
- 週間では米ドル/円は0.12%の円安、ユーロ/円は0.59%の円高となりました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>